

佐賀県研究成果情報（作成 2025 年 2 月）

【情報名】 タマネギべと病の多発は貯蔵中の腐敗を助長するので、立毛中の防除が重要

【要約】 タマネギべと病の多発は貯蔵中の腐敗を助長するので、予防を主体とした防除が必要である。

【キーワード】 タマネギ、べと病、貯蔵腐敗

【担当】 佐賀県農業試験研究センター・環境農業部・病害虫・有機農業研究担当

【連絡先】 0952-45-8808・nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp

【分類】 普及

【部会名】 土地利用型作物

【専門】 作物病害

【背景・ねらい】

タマネギの中晩生品種の貯蔵中に発生する腐敗には、立毛中に発生する病害虫被害が大きく関与し、ネギアザミウマの多発が貯蔵腐敗の発生を助長することを明らかにした（令和4年度佐賀県研究成果情報）。一方、長雨の影響や、防除の遅れ等から、べと病が多発するケースも見受けられることから、べと病と貯蔵腐敗発生との関係について明らかにする。

【成果の内容】

1. タマネギべと病が多発すると、貯蔵腐敗を著しく助長する（表1）。
2. 一般的には大玉で貯蔵腐敗が多い傾向にあるが、べと病が多発すると、大玉でなくても腐敗が多い（表2）。

【成果の活用面・留意点】

1. タマネギべと病の対策として、発生源を最小限に抑えるための耕種的対策（夏期湛水、早期抜き取り等）と殺菌剤の予防散布が重要である。べと病対策のポイントについては、[「タマネギべと病対策マニュアル（2019年発行）」](#)を参考にしていきたい。
2. ベと病多発圃場の収穫物については腐敗が多く、貯蔵性が低下することから、べと病少発生圃場の収穫物とは別扱いとした方が望ましい。

【その他】

研究課題名：園芸 888 運動を推進するうえで露地野菜において問題となっている主要病害虫の新たな防除技術の開発

予算区分：国庫

研究期間：2022～2024 年度

研究担当者：井手洋一・古田明子・近藤知弥

発表論文：日本植物病理学会報 91 巻（2025）. 印刷中（講要）.

[具体的なデータ]

表1 タマネギべと病の多発が貯蔵腐敗の発生に及ぼす影響

年次	べと病 ¹⁾		貯蔵腐敗率(累積・%) ²⁾		
	発生程度	発病株率 (%)	細菌性腐敗	黒かび病	合計
2021	多	74.4	16.8	0	16.8
	少	5.8	0.8	0	0.8
2023	多	100	34.3	13.7	48.0
	少	20.0	3.0	0	3.0

1)べと病の発生については、薬剤防除でコントロールし、多発区については殺菌剤をほぼ無散布とし、少発生区については県の慣行基準に従い、マンゼブ剤を中心とした約10日毎の殺菌剤散布を行った。発病株率は5月上旬時点の調査結果を示す。

2)品種「ターザン」(11月下旬～12月上旬移植、5月下旬収穫)を供試し、同一圃場内に、べと病多発エリアと少発生エリアを設け、それぞれ各試験区から約30球ずつを収穫して折り畳み式コンテナに常温で貯蔵した。腐敗球については、収穫後約2週間毎に調査し、腐敗球についてはその都度取り除いた。表中には7月上旬時点の腐敗割合を示した。なお、本試験では黒かび病の標徴がみられないものを細菌性腐敗、標徴がみられるものを黒かび病と判定した。また、べと病多発生区の数値のうち、少発生区との間に10%以上の差がみられる数値については、太字・下線付きとした。

表2 タマネギべと病の多発が階級別の腐敗割合に及ぼす影響

年次	べと病 ³⁾		項目	階級別球数・腐敗割合% ⁴⁾						
	発生程度	発病株率 (%)		3L	2L	L	M	S	2S	計 C
2021	多	74.4	調査球数 A	1	8	83	27	0	0	119
			腐敗球数 B	1	3	15	1	0	0	20
			割合① ¹⁾	0.8	2.5	12.6	0.8	0	0	16.8
			割合② ²⁾	100	37.5	18.1	3.7	-	-	
	少	5.8	調査球数	0	14	99	6	0	0	119
			腐敗球数	0	1	0	0	0	0	1
			割合①	0	0.8	0.0	0.0	0	0	0.8
			割合②	-	7.1	0	0	-	-	
2023	多	100	調査球数	0	1	18	39	37	7	102
			腐敗球数	0	1	12	32	4	0	49
			割合①	0.0	1.0	11.8	31.4	3.9	0	48.0
			割合②	-	100.0	66.7	82.1	10.8	0	
	少	20.0	調査球数	0	3	59	29	10	0	101
			腐敗球数	0	0	2	1	0	0	3
			割合①	0	0.0	2.0	1.0	0	0	3.0
			割合②	-	0	3.4	3.4	-	-	

1) 割合①(%) = 腐敗球数 B / 調査球数合計 C × 100

2) 割合②(%) = 腐敗球数 B / 階級別調査球数 A × 100

3) べと病のコントロール方法については表1に同じ

4) 腐敗球の調査方法については表1に同じ